

熊大、清浦新学説と対決

水俣病

二つの学会で発表

医学の成果強く主張

水俣病の原因究明は三年がかりで厚生省と熊大の協力によって
すめられた結果、「有機水銀化合物による中毒」との結論が
だされていたが、このほど東京工大の清浦教授が「貝による中
毒説」を発表して、波紋を投じている。このため熊大水俣病特
別研究班では、清浦学説を「医学を知らぬナンセンス」として

対決する方針を決め、十五、六の両日福岡市で開かれる臨床神
経学会総会と、十八日から久留米市で行なわれる日本精神神経
学会の席上、これまでの研究データを全部提出して有機水銀説
の学問的根拠を明らかにすることになっている。

両学会には精神科の宮川教授らを
はじめ、第一内科徳臣助教、第
一病理神原助教、第二病理松本
助手ら第一線で水俣病と取り組ん
できた研究陣が発表するが、軽症

患者（一人）を出席させるほか、
解剖所見や病気の実際などをスラ
イドや映画を使って説明する。
とくに徳臣助教はシンポジ
ウムの席上、臨床所見を洗いざ

らい示して、水俣病原因究明の
総まとめを発表する方針。
同助教は貝中毒説について、
臨床所見が明らかに重金屬中毒
であり、貝の中毒症状とは全く

違ふ。これだけをとってみても
清浦教授説は問題にならない。
水俣病はあくまで病気のなか
ら、医学陣の研究成果を強く主
張したい。

と反ばくしている。
ただ宮川教授はいぜんタリウム
説をとっており、こんどの学会
でも同じ発表を行なう予定なの
で、同じ研究班内における結論
の不一致は、重金屬中毒の線は
動かぬとしても、多少の不安を
抱く向きもある。いずれにして
もこの二つの学会で、清浦新説
に対する熊大側の実質的な反論
が展開されるわけで、各方面の
注目を集めている。